

2020年6月15日

菌状息肉腫（MF）およびセザリ－症候群（SS）治療薬 POTELIGEO® の 欧州販売開始のお知らせ

本ニュースリリースは、当社が発表した英文プレスリリースの内容を日本語に翻訳、再構成し、発表しています。本ニュースリリースの正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先しますことをご留意下さい。 [協和キリン英語リリース](#)

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本 昌志、以下「協和キリン」）は本日付で、全身治療歴を有する成人の菌状息肉腫（MF）およびセザリ－症候群（SS）を適応症とした POTELIGEO®（一般名：モガムリズマブ、日本製品名：ポテリジオ®）^注をドイツで販売開始することをお知らせいたします。

MFとSSはそれぞれ皮膚T細胞性リンパ腫（CTCL）の主な病型の一つです。CTCLは皮膚、血液、リンパ節、内臓に影響を及ぼす希少な非ホジキンリンパ腫であり、¹ 10万人あたり約5.2人がCTCLを発症しています。² MFとSSはCTCLの約65%を占めており、^{1,3} 欧州におけるMFの年間発症率は、11万人に1人から35万人に1人、⁴ SSの年間発症率は1000万人に1人と推定されています。⁵ この疾患を持つ患者さんは、多くの場合、皮膚の損傷、かゆみ、痛み、その他予測不可能な皮膚症状に悩まされています。POTELIGEOは、これらの皮膚症状や疾患に関連する症状を改善し、また、対照薬と比較し無増悪生存期間（PFS）を有意に延長したことが示されました。⁶ 欧州におけるPOTELIGEOの販売は協和キリングループのKyowa Kirin International PLCが担当し、ドイツでは2020年6月15日から処方が可能になります。

協和キリングループは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

注：POTELIGEO®について

POTELIGEOはCCケモカイン受容体4（CCR4）を標的とするファーストインクラスのヒト化モノクローナル抗体です。CCR4はCTCLを含めた特定の血液がん細胞に高発現しています。POTELIGEOは抗体依存性細胞傷害活性（ADCC）増強に関連する協和キリンの技術（POTELLIGENT®）を用いて創製されました。

POTELIGEOは2018年11月に欧州委員会（European Commission）により全身治療歴を有する成人の菌状息肉腫（MF）およびセザリ－症候群（SS）の治療薬として承認されています。

参考文献：

- ¹ Olsen E, Vonderheid E, Pimpinelli N, et al. Revisions to the staging and classification of mycosis fungoides and Sezary syndrome: a proposal of the International Society for Cutaneous Lymphomas (ISCL) and the cutaneous lymphoma task force of the European Organization of Research and Treatment of Cancer (EORTC). *Blood*. 2007;110(6):1713-22.
- ² Orphanet: Prevalence and incidence of rare diseases: Bibliographic data. Available from: https://www.orpha.net/orphacom/cahiers/docs/GB/Prevalence_of_rare_diseases_by_decreasing_prevalence_or_cases.pdf. Last accessed: May 2020.
- ³ Kim EJ, Hess S, Richardson SK, et al. Immunopathogenesis and therapy of cutaneous T cell lymphoma. *J Clin Invest*. 2005;115(4):798-812.
- ⁴ Orphanet: Mycosis Fungoides. Available from: https://www.orpha.net/consor/cgi-bin/OC_Exp.php?Lng=GB&Expert=2584. Last Accessed: May 2020.
- ⁵ Orphanet: Sézary syndrome. Available from: https://www.orpha.net/consor/cgi-bin/OC_Exp.php?Expert=3162. Last Accessed: May 2020.
- ⁶ Kim YH, Bagot M, Pinter-Brown L, et al. Mogamulizumab versus vorinostat in previously treated cutaneous T-cell lymphoma (MAVORIC): an international, open-label, randomised, controlled phase 3 trial. *Lancet Oncol*. 2018;19(9):1192-1204.